

資料 4

多核種除去設備等処理水に関する設備の検討に必要な海域での地質調査等の実施について

2021年12月2日



東京電力ホールディングス株式会社

福島第一原子力発電所 多核種除去設備等処理水に関する 設備の検討に必要な海域での地質調査等の実施について

< 参 考 資 料 >
2021年11月26日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

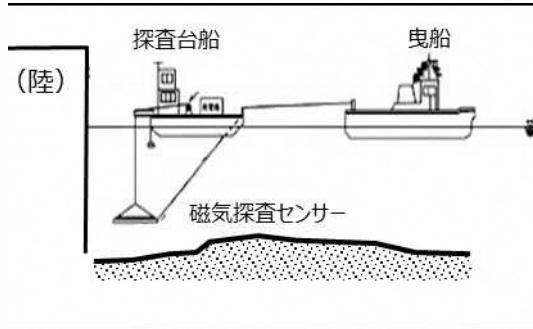
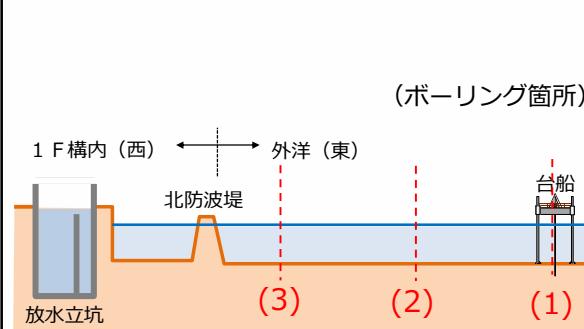
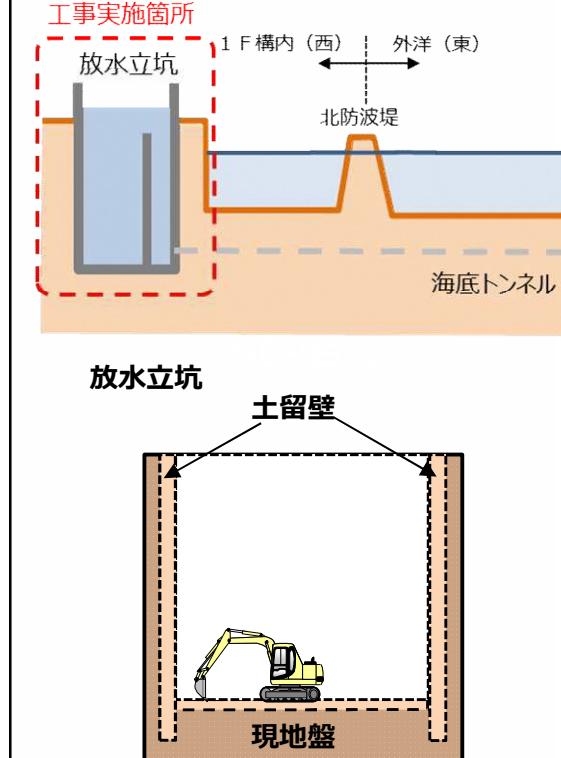
- 多核種除去設備等処理水の取扱いについては、政府の基本方針（本年4月に決定）を踏まえ、安全性の確保を大前提に、風評影響を最大限抑制するための対応を徹底すべく、設備の設計や運用等の検討の具体化を進めています。本年8月25日、これらの検討状況について公表しました。
- そのうち、取水・放水設備は、港湾外から海水を取水し、海底トンネル（約1km）を経由して放出する案とし、関係するみなさまからのご意見等を伺いながら、引き続き検討を進めています。
〔お知らせ済み〕
- 今回、同設備の詳細検討や工事の安全確保に向けて、地質データの把握に必要となる海域での「磁気探査調査」を11月27日以降、「地質調査」を12月1日以降開始する予定です。
- また、5・6号機取水口付近における環境整備工事（放水立坑周辺の土留設置・掘削等）についても、12月上旬頃を目途に開始する予定です。
- 当該調査や環境整備工事は、実施計画の変更を伴う設備構築には該当せず、気象・海象の状況等を見ながら、安全を最優先に進めてまいります。



出典：地理院地図（電子国土Web）をもとに東京電力HD株式会社にて作成
<https://maps.gsi.go.jp/#13/37.422730/141.044970/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>

概略工程		
11月	12月	1月以降
①磁気探査調査 (地質調査の事前準備)		
	②地質調査	
		③環境整備工事

※気象・海象により工程が変更となる場合があります。

	① 磁気探査調査 (地質調査の事前準備)	② 地質調査 (海上ボーリング調査 SEP台船使用)	③ 環境整備工事
目的	「地質調査（海上ボーリング調査）」に先立ち、調査対象エリアの海底に支障物のないことを、磁気探査センサーで確認（探査台船による確認の結果、支障物を確認した場合には、潜水による確認を行う）	取水・放水設備（海底トンネル等）の設備検討を行う上で必要な地質データの把握のため（3箇所） なお、気象海象の影響で地質調査が長期化する場合には、SEP台船以外の代替方法の検討も並行して進めてまいります。	放水立坑の設置や海底トンネル構築(本工事)に向けた整備（土留の設置・掘削等を実施）
イメージ	  <p>探査台船 曳船</p>	 <p>（陸） 探査台船 曳船 磁気探査センサー （ボーリング箇所） 1 F 構内（西） ← → 外洋（東） 北防波堤 放水立坑 （3） （2） （1） SEP台船（※） ボーリング機械</p>	 <p>工事実施箇所 放水立坑 1 F 構内（西） ← → 外洋（東） 北防波堤 海底トンネル 放水立坑 土留壁 現地盤</p>

- 多核種除去設備等処理水の取扱いについては、政府の基本方針（本年4月に決定）を踏まえ、安全性の確保を大前提に、風評影響を最大限抑制するための対応を徹底するべく、設備の設計や運用等の検討の具体化を進めています。本年8月25日、これらの検討状況について公表しました。
 - そのうち、取水・放水設備は、港湾外から海水を取水し、海底トンネル（約1km）を経由して放出する案とし、関係するみなさまからのご意見等を伺いながら、引き続き検討を進めています。
 - 同設備の詳細検討や工事の安全確保に向けて、地質データの把握に必要となる海域での「磁気探査調査」を11月27日以降、「地質調査」を12月1日以降開始する予定です。
〔お知らせ済み〕
-
- 11月27日、下表通り「磁気探査調査」を実施し、調査対象エリアの海底に支障物がないことを確認しました。本調査結果を踏まえ、「地質調査」を12月1日以降開始します。
 - 引き続き、気象・海象の状況等を見ながら、安全を最優先に進めてまいります。

磁気探査調査結果

	台船探査	潜水探査	結果
沖合 1,000m	11/27実施	11/27実施	支障物なし
沖合 700m	11/27実施	必要なし（台船探査の結果）	支障物なし
沖合 400m	11/27実施	必要なし（台船探査の結果）	支障物なし

(参考) 磁気探査調査写真

TEPCO

福島第一原子力発電所沖合1km圏内で撮影

